

開講科目名 Course	民事訴訟法研究 / Law of Civil Procedure
時間割コード Course Code	10970
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 4
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	張 瑞輝
科目区分 Course Group	企業関係法科目群
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	張 瑞輝 (法学部)
授業の目標	<p>実体法上の法律関係を的確に把握していることを前提として、その実体に適合する手続の流れと選択を為し得るように、手続の流れに沿って民事訴訟法の基本概念と基本構造を習得することを授業目標とする。</p> <p><学習成果></p> <p>知識・理解の領域 手続の流れに沿って民事訴訟法の基本概念と基本構造を把握することができる。 制度の趣旨や学説の解釈についてその要点をしっかりと理解することができる。</p> <p>態度・思考性の領域 法改正の課題と動向について自ら進んで調べるようになる。</p> <p>技能の領域 民事訴訟法の基本判例を読み解くテクニックが身につく。 通説の通説たる所以や判例の意義を正しく理解することができるようになる。</p>
授業の概要	<p>本授業は、Googleクラスルームによる遠隔授業である。毎回の授業は、配布資料と 評価テストにより構成される。</p> <p>授業の進行に関しては、Googleクラスルームでの配布資料に沿って、民事訴訟法の個々の条文の構造と解釈ならびに学説上の議論状況の解説・分析を時間的に可能な範囲内で手続の全体について行う。</p> <p>具体的に言えば、毎回の講義開始時刻まで 配布資料と 評価テストがGoogleクラスルームにて配布され、履修者は 配布資料を熟読したうえ、 評価テストを提出期限までに提出しなければならない。</p>
評価方法	<p>第一 基本説明</p> <p>(1) 期末試験は、実施しない。</p> <p>(2) 期末試験の代わりに、15回の評価テストを実施する。</p> <p>(3) 評価テストは、Googleクラスルームにて、毎回の授業開始時刻までに、配布される。</p> <p>(4) 評価テストの提出期限は、翌週の火曜日の12時00分まで、とする。</p> <p>第二 評価基準</p> <p>(1) 平常点 (受講態度、例えば、教員から要連絡・要返信のある連絡に対する返信の有無) は10%、</p> <p>(2) 評価テスト (15回の評価テスト) は90%、との割合で総合評価する。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	連絡不能の場合など。

授業計画	第1部 総論 第1回 民事訴訟法の世界への扉 第2部 訴訟の主体 第2回 裁判所 第3回 当事者 第3部 訴え 第4回 訴え 第5回 訴訟要件 第6回 訴訟物 第4部 訴訟の審理 第7回 審理における当事者の弁論活動と裁判所の役割 第8回 口頭弁論とその準備 第9回 証拠 第5部 訴訟の終了 第10回 当事者の行為による訴訟の終了 第11回 裁判所の終局判決による訴訟の終了 第6部 上訴・再審 第12回 上訴・再審 第7部 複雑な訴訟形態 第13回 請求の客観的複数 第14回 請求の主観的複数 第8部 特別の手續 第15回 略式訴訟手續
テキスト	プリントを配布する。
参考書	(A1) 伊藤眞・山本和彦(編)『民事訴訟法の争点』(有斐閣、2009年) (A2) 杉山悦子『民事訴訟法重要問題とその解法』(日本評論社、2014年) (A3) 高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂(編)『民事訴訟法判例百選[第5版]』(有斐閣、2015年) (B1) 和田吉弘『基礎からわかる民事訴訟法』(商事法務、2012年) (B2) 高橋宏志『民事訴訟法概論』(有斐閣、2016年) (B3) 上原敏夫・池田辰夫・山本和彦『民事訴訟法 第7版』(有斐閣、2017年) (B4) 中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕『新民事訴訟法講義 第3版』(有斐閣、2018年) (B5) 三木浩一・笠井正俊・垣内秀介・菱田雄郷『民事訴訟法(Legal Quest) 第3版』(有斐閣、2018年)
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	オフィスアワー等。相談により随時対応する。
フィードバックの方法	授業のフィードバックは、原則として、Google Classroomの諸機能(添削、返却、等)を利用して行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	(1) 予習復習等、準備学習の内容は、前記参考書の該当範囲のほか、Google クラウドームを利用して配布する予定である。 (2) 予習復習等、準備学習の時間は、各回で少なくとも4時間以上を要する内容となっているため、該当範囲を事前に閲読した上での受講が必要となる。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	